

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹

Saranoki

No.10

2018年秋号

10月5日発行



真備町にて

豪雨災害地

岡山県倉敷市真備町を訪問して

西日本を襲った七月七日未明からの豪雨は大災害をもたらしましたが、中でも小田川と高梁川の二つの川にはさまれた倉敷市真備町に被害が集中し、多くの人命が失われました。当連盟は早速「被災した子どもたち」のために義援金の募集をいたしました。

八月二十二日、末廣理事長と梨本、日比野理事が被害地、倉敷市真備町の社会福祉法人倉敷福德会「かなりや保育園」と学習塾スタッフによる「まなびのひろば」を見舞いました。

真備町は倉敷駅より北西方面に車で三十分ほどの位置にあり、やさしい山並みの町ですが、保育園に到着するとそ

の被害の凄まじさに驚きました。園舎の一階部分は天井まで完全に破壊され、園庭にはがれきが積まれていました。狩山亜由美園長の案内で中に入ると、二階へ上がる階段の壁に残った浸水した線は、三m四十cmを示していました。以下園長の話です。

「七日、夜中の一時に総社市の工場で爆発があり、眼が覚め初めて危機を感じて逃げました。小学校や県外の体育館に避難した子供達の安否の確認をするのにスマートフォンは通じずガラケーの電話を使いました。行政の対応が遅く、おにぎり、お弁当でけんかになってしまふほど、人々の気持ちはいらだてていました。九日に水が引いた後も乾燥した川の泥が残ってぜんそくや、結膜炎が流行り、トイレのにおいが洗っても消えず、水没したものは全部がれきと化しました。一階にあった、日常の子どもたちが遊んでいるおもちゃ類、運動のためのマット、玉入れなど運動会のセット他

全て失いました。保育園関係のボランティアの方が園庭のごみを片付けて、保育園を応援してくださいました。

周囲の家は取り壊され、夜になると真っ暗になります。十一月より開園予定ですが、保育園に戻れない子も多く、二百人いた園児も百五十人位に減ります。教師の数も減らざるを得ません。子どもたちの心のケアが今後の大きな課題です。」と園長は心配します。「かなりや保育園」には運動具やおもちゃなど、子どもたちの健全育成のために必要な備品を寄付する約束をいたしました。

県道にはショップなどの看板だけは立ち並んでいましたが、中身は空っぽでゴーストタウンの様になっていました。決壊した川岸へ行くと倒壊した木造住宅の惨状がそのまま残り、山のようながれきが残されていて、トラックやボランティアの人たちは盛んに働いていました。

総社市の役所では「まなびのひろば」の事務局長、高山和成氏に会いました。「学習塾のスタッフ六人、ボランティア四十名ほどで被災した小学生、中学生数百人が学習する

尚、被害が大きかった広島県「(公財)ひろしまこども夢財団」にも皆様の浄財を寄付させていただきましたことをご報告申し上げます。ご協力ありがとうございました。

(報告 日比野郁皓)



かなりや保育園の1階

私たちの活動報告

各事業にご賛助及び
ご協力をいただき、
ありがとうございます。

7月1日～9月15日(順不同・敬称略)

▼賛助金にご協力の方々

妙清寺 三千院門跡 真言宗智山派
金剛院 神奈川県仏教会 法隆寺
(株)経営総合研究所

▼特別寄付をいただいたの方々

祐天寺 稲山靈芳

▼ご芳志をいただいたの方々

桶屋良祐

▼福祉事業にご協力の方々

天王寺 末廣久美

▼写経にご協力の方々

【新豊院扱い】

篠田節子 吉崎みゆき 花田まさ子
花田照子 磯部悦子 植松園子
出雲君美子 篠田るり子 依田佳子

【事務局扱い】

林房江 村上和之 横山俊子
末廣久美 佐々木公子 大橋百合子
花岡真理子 海老塚るり子 林恵智子
桶屋良法 吉田視知恵 中村京子
海老名初江

▼里親運動にご協力の方々

篠田節子 山居享子 上原桂子

▼一本のタオル運動にご協力の方々

寂光院

▼誌代にご協力の方々

木南鈴子 佐々木公子 長尾節子
安井豊子



7月

- 2日 真言宗智山派五台山竹林寺訪問(高知)
- 10日 「全佛婦」127号発行
- 12日 (公財)全日本仏教会第1回支援検討会議(明照会館)
- 24日 第2回運営委員会(天王寺)・懇親会(谷中・トラモント)
- 25日 念法真教三代燈主稲山靈芳師本葬儀(大阪・総本山金剛寺)
- 26日 念法真教三代燈主稲山靈芳師告別式(大阪・総本山金剛寺)
- ・(公財)全日本仏教会第1回社会・人権審議会(明照会館)

8月

- 4日 比叡山宗教サミット31回「世界宗教者平和の祈りの集い」(比叡山延暦寺)
- 6日 「沙羅の樹」編集打合せ
- 14日 第53回 戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典(九段・千鳥ヶ淵墓苑)
- 21日 (公財)全日本仏教尼僧法団訪問(慈母会館)
- 22日 西日本豪雨被災地岡山県倉敷市真備町訪問
- 24日 朝日ビジネスソリューション来局(事務局)
- 28日 念法真教桶屋良祐四代燈主来局(事務局)

9月

- 3日 第54代日蓮宗管長・立正大学学園総裁ご就任祝賀会(帝国ホテル)
- 11日 第3回運営委員会(天王寺)
- 18日 (公財)全日本仏教会第2回支援検討会議(明照会館)
- ・大会打合せ(東天紅 上野店)

☑ 10月17日(水)

宮城県石巻市
小竹浜集会所交流会

☑ 11月7日(水)

静岡県仏教婦人会
60周年記念大会
静岡グランシップ 大地

☑ 11月9日(金)

世界仏教徒会議日本大会
会場：大本山總持寺

☑ 11月10日(土)

全日本仏教青年会
全国大会
会場：大本山總持寺

☑ 11月22日(木)～28日(水)

印度山日本寺 記念法要と世界遺産
タージマハルの旅(インド)



☎ 問合せは当連盟事務局まで ☎ 03-5772-0677

静岡県仏教婦人会（静岡仏婦）は、毎年千人以上の会員が参加する大会を開催しています。本年度は第60回大会を迎えます。「継続は力なり」といいますが、現在（公社）全日本仏教婦人連盟の理事等の諸役を務めてご尽力下さっている方々に「60年の歩みや思い出話」を聞きました。

静岡県 仏教婦人会 について 聞きました！

出席者

篠田節子

長尾節子

佐々木公子

安井豊子

問 静岡仏婦の創立した経緯は？

戦後の混沌とした時代、仏教が必要とされました。全日本仏教会が設立され、静岡にも各地域に仏教会ができました。

各都市仏教会の協力により、全日仏婦理事と木全、野上会長達が熱意をもって、県下に賛同寺院を求めた結果、超宗派の寺院婦人会が結成されました。

各寺院が檀家に会員を募り、集合体として地区（支部）ができ、更に地区の代表として県仏婦に参加という仕組みが構成されました。

問 事業は？

修正会、夏期結集（研修旅行）、大会、県仏の慰霊

問 印象に残っている具体的な思い出または携わった事は？

第50回大会の記念事業としての写経。大本山総持寺に奉納をし、収益金で遊具を県立こども病院に寄

問 大会は年一回、大変に大きなホールを会場に開催されていますが？

主催は持ち回りで地区が主体的に担当します。地区毎に人数を割り当てることで1000人以上が常に参加しています。



↑仏婦だより

祭に参加、びっばら国際児童基金、「仏婦だより」の発行等。

問 新たな活動は？

近年はフードバンクにも協力。大会の際に参加者からお米を集めることを始めました。

米を入れるビニール袋も無駄にせずお菓子を入れて子供に配る等、環境に配慮しています。

問 60年も継続出来た理由は？

寺院を中心に地域の集落があり、会員である檀家が寺院の事業に協力するなど、結束が強いと思います。

大会開催担当を地区が持ち回りで、大変ではある

問 今後の展望は？

現代は価値観が多様になっており、会員の若い世代の入会が減少しているのが心配。

一方県仏婦の役員人事の交替も円滑にすすみ、時代のニーズにあった若い発想で新事業を展開しており、今後の発展を期待しています。

仏教寺院の存続問題や、宗教そのものの意義が問われている現代に、静岡県仏教婦人会の会員が信仰の輪を大切に、寺院を中心に地域で活動され、更に社会のために貢献されていることに心から敬意を表します。



静岡県仏教婦人会 第60回大会を記念して

静岡県仏教婦人会は全日本仏教婦人連盟が設立して以来、関連団体として共に歩んできました。



平成三十年十一月七日、静岡県仏教婦人会は六〇周年記念大会を迎えることとなりました。人生でいう還暦、また平成最後の周年大会となり、正に節目の記念すべき大会であります。昭和三十四年、お釈迦様の教えを頂き、初代会長様のご尽力で結成され、諸先輩方が脈々と受け継いでこられた会です。現代のような通信手段のなかった時代に会の運営をされてきたことに唯々頭の下がる思いです。

静岡県仏教婦人会は修正会、夏期結集、県大会の三大行事を軸に社会貢献を目標に掲げ、募金活動、フードバンク活動を仏婦会員の皆様に広めています。

今大会では『つなぐ』のテーマの下、「うつりゆく時代、流れる歲月、仏教婦人会の心得を未来へ繋ぎます。」をサブテーマに企画してきました。全日本仏教婦人連盟様は子供たちの未来のためにと

活動されています。私たちも未来の子供たちに『つなぐ』ために取り組みを行っています。

今大会の企画として「お米一人一合支援」「震災支援物品販売」「ボランティア会クラフト販売」を会場にて行います。三年ほど前から取り組んできましたフードバンク活動を会員の皆様に、より理解ご協力をいただくために、また地域社会に「つなぐ」ために企画いたしました。

六〇年という時の流れの中で世の中も人の考え方も変化し、社会が豊かになった反面、手を差し伸べなければならぬ方が多いことも事実です。私たちの会は、フードバンクふじのくにのスローガン「もったいない」から「ありがとう」へのお互いが感謝しあえるこの素晴らしい支援活動に協

賛し、活動の輪をつなげていきたいと思っています。

一人一人は小さな力でも「つどいの力を信じて働きましょう」の仏婦の信条を心の糧にお釈迦様の教えを實踐して未来へつながって行くことを祈念いたします。

合掌

静岡県仏教婦人会会長

松永郁代

